

#05.メス臭たっぷりお布団の中でべったり密着・とろめるおまんこにナマハメ

エッチ♪

//かなたの家・かなたの部屋

「はい、どーぞ」

「横になりながらでごめんね～、あんたが来るの待ってたら

眠くなっちゃってさ～」

「ほらーあんたも来なよ～一緒にお布団入ろ～？」

「ほらほら～恥ずかしがらずにさ～今なら中、ぽかぽかだよ～？」

「ん、ふふっ！ どうぞどうぞ～」

「じゃーん…さぶらーいず♪」

「どうどう～？ 驚いた～？」

「ちょっとだけエッチな下着…用意して、攻めてみました～」

「なんて…」

「あんたこういうの好きそうかな～って思ったんだけど」

「あはは…流石にはしゃぎすぎたかな？ 私…」

「まあいいや、入って入って～」

「一緒に寝よ～？」

「んっ…ふう…」

「ふう、ふう…ごめん…実はあんたが来る前から、ちょっと興奮しちゃって…」

「布団の中で、ひとりで…してたから」

「ちょっと、女の子の匂い…強くなってるかも…」

「ふう、だから…あんたも男の子の匂い…たくさん出してほしいかも…」

「2人の匂いを混ぜてさ…エッチな匂いにしちゃおう？」

「んふふ、なんて…ごめん、今日の私…ちょっと変かも」

「あんたとこうして過ごしてるとさ、本当エッチなことばかり

考えちゃうんだよね」

「…もし、迷惑だったら…言ってね？」

「あんたも、こういうの嫌いじゃなかったら…」

「その…ずっとこうして、くっついて…朝まで…たくさんその…

エッチなこと…したいな」

「んっ…あっ…！ あうっ！ んっ！ ちゅっ！ ちゅうっ！

んちゅっ！ んふっ！ ちゅっ！ ちゅうううっ！」

「んふう、ふう…ふう…えへへ…嬉しい♡」

「んちゅっ、ちゅっ、ちゅううう…んちゅっ、んっ、れるれる…れろちゅっ…

んふ～っ！ ふうううっ…」

「うん、うん…じゃあ朝まで…たくさん、しようね♡」

「今日は寝かせないよ～なんて…たくさん、キスマークつけちゃうんだから…」

「んちゅっ…ちゅっ、ちゅううう…ふう、んっ…ちゅっ…ちゅっ…れるれる…」

「れろちゅっ、ちゅう…んちゅっ、ちゅう…」

「はあ、はあ…」

「えへへ～首にキスするの…してみたかったんだあ～」

「ついでに…おっぱいも…カリカリ～ってしてえ…」

「はあ、はあ…気持ち？」

「んふっ…ちゅっ、ちゅうっ…れるれる…れろちゅっ…ちゅぶっ、はあ、はあ…」

「…良かったあ♡ んちゅうっ…ちゅぶぷあ…」

「はあ、はあ…んふっ、お布団の中にいるから…もう汗、かいてきちゃったね～」

「どんどん、エッチな匂いがムワムワって出てきてる～♡」

「どんどん、出していこ？ 私も、頑張るから」

「ふう、ふう…ふううう～」

「んっ…ちゅっ…んゅっ…ちゅうう…ちゅっ、ちゅぶっ…れるれる…

れろちゅっ…れりゅ…」

「んふっ、ぷちゅっ…れるれる…れろちゅう…んちゅう、はあはあ♡

はふうっ♡」

「耳舐められるの、好きでしょ？ んちゅうっ…れるれる、顔に書いてあるぞ～」

「んふっ、伊達に長いこと、一緒に過ごしてないんだから…

れるれる、れぷちゅっ、ちゅぶあ♡」

「はあ、はあ…れる～ちゅっ…れるれる…」

「されるだけだと、嫌かな？」

「そしたら、あんたも私の体…触ってよ…」

「この下着、触り心地も良くて…あんたも気に入っているし…」

「ね？」

「んんっ…あっ！ はあ、はあ！ そんな強くおっぱい…もんでくるなんて…」

「本当に、興奮してたんじゃない♡」

「大丈夫だよ…そんなに焦らなくても…」

「おっぱいは逃げないんだから…んんっ！ でも、んんっ！

その触り方…エッチで…好き♡」

「はあ、んっ、ふう、んんっ…はあ、はあ…あああっ…」

「体、熱くなってえ…私、また女の子の匂い、出しちゃうっ♡」

「はあ、はあ…んんっ！ ケダモノ…なんだからあつ…んふっ！

んっ！ はあ、はあ…んんっ！」

「はあ、はあ、私も…頑張らないと…んっ！ ねえ…んんっ！」

「ふう…ふう…」

「ふふ、こっちも…失礼しまーす♡」

「ふう、ふう…ふううう～」

「ちゅっ…ちゅぶっ…んんっ♡ れるれる、れろちゅっ…んちゅう、

れるれる…ふうう♡」

「んあっ…あつ、そこ…触られるの…いい…んんっ！

んちゅう、れるれる…はあ、はあ…」

「どんどん、エッチな気持ち…高まってきたちゃう…んんっ！

はあ、はあ…あむっ…んちゅっ、れるれる…れろちゅ…」

「んちゅっ、れるれる…ふう、んんっ、ああっ…はあ、はあ…♡

んちゅっ、れりゅ、れるれる、れるう～」

「ふう、ふう…んんっ！ あふっ、ふう、んんふっ…ふうう…

ぷちゅっ、れるれろ…んちゅう…♡」

「はあ、はあ…んんっ…すんすん…あんたの汗から…匂い…昇ってきてえ…

んんっ！」

「ふう、ふう…すんすん、んんっ！ あふう…んんっ！ んんっ！ 好きい…♡」

「ん…ふふっ…もうおちんちん、バキバキになってるじゃん♡

興奮してるんだ♡」

「んんっ、でも挿れるのはもう少し我慢しよ…」

「この前は急ぎだったけど…今日はじっくり…じっくり気持ちよくしてきたい

から…♡」

「こうして、太ももで挟んでえ♡」

「ずり、ずり…ずり、ずり、ずり、ずり…♡」

「ぎゅう、ぎゅう…ずり、ずり…♡」

「ふふっ、太ももでズリズリされるの…結構良いでしょ？」

「肌と…下着の生地にごすれて…お得っていうか～」

「ちょっと汗ばんでるかもだけど…」

「…んふ、ふう…ふう…それに…私も、あんたのがごすれて…気持ちいいし♡」

「ふふっ、二重にお得…だわ～っ…んんっ♡」

「んんっ、ふう…ふう…はふうっ…んんっ、んふっ、んんっ…」

「はあ、はあ…んっ！ あうっ…んんっ…熱いのがごすれて…んんっ…」

「ムズムズしてきちゃう…んんっ♡ はあ、はあ…はふう♡」

「んん…はあ、はあ…あんたのおちん…ちん…やっぱり、最高…だよお♡」

「はあ、はあ…んちゅっ、れるれる、れろお…れるるう…んんっ！

ふう、んちゅっ、れる…」

「れろぶちゅっ…んちゅう、ふう、んふっ…ふう…んちゅ、れるれう…

れろれりゅ…♡」

「はふう、んふう…はっ…んんっ！ ふう…ふう♡ はあっ…あっ…んふっ！」

「はあ、ねえ、ちゅー…ちゅーしよお…」

「体、密着させながらぁ…んふっ、唾液たっぷり絡ませてえ…んんっ♡

絶対もっと、気持ちよくなれるもん…♡」

「はぁ、はうう…んちゅっ、ちゅう…れおれお…れろれぷっ…ちゅうう…

んんっ♡」

「はぁ、んっ…あああっ…れるれろおっ…れろお、んんっ…れるぷちゅっ…

れるれる…」

「はぁ、好き…好き…んちゅっ、それ…ってえ…んちゅう、れるれる…

好きい…♡」

「ぷふぁ…はぁ、はぁ…んんっ…もう、汗だく…だよぉ♡」

「あんたの体も、ベトベトだし…ふう、んんっ…」

「私も…ベタってしてきてるし…はふうっ…あっ、んんっ！」

「エッチな匂い…ムワムワって広がってえ…んっ…ふううんっ！」

「はぁ、はぁ…えへへ…匂いだけで、イッちゃいそう…♡」

「んんっ、ふう、ふう…」

「んちゅっ、ちゅぶっ、れるれる…れろちゅっ…んちゅっ、はあ、ふう…
ふうう…」

「はあ、はあ…あんたも…そろそろ…挿れたくなってきた？」

「んちゅう、れるれる…れろお、あふっ…んんっ、わかるよお♡
それくらい…んんっ！」

「ちゅぶっ…おちんちん、すごく熱くなってるしい…んちゅう、れるれる…」

「私も…限界、だしい？ んちゅう、ちゅぶ、あ、んんんっ！」

「はふ、ふう、ふう…ねえ…今日はさ…んっ、おちんちん…挿れる時…その…」

「ふう、ふう、生で挿れてくれない？」

「…もう、私我慢できないのお…」

「生で、おちんちんどちゅどちゅってして…ほしいんだよお♡」

「それにね…おまんこ…もお…擦り合わせて、ぐじゅぐじゅになってえ♡」

「ぜーったい今までよりも一番気持ちよくなってる自信あるしい～」

「あんたにだけ…ううん、あんただけに挿れてほしいの…大好きな、あんたに…」

「だから…お願い…♡」

「んちゅう、れるれる…挿れよ♡ 挿れよ♡ 生のおちんちん…ちょうだい♡

んちゅう、れるれる…ね、お願い〜い」

「えへへ〜流石に、断れないよね〜♡」

「じゃあ…」

「ふうふう…んんっ…えへへ…」

「下着…取れちゃったあ♡」

「さっきまでは布越しで擦り合わせてたけど…ここからはあ…生のおまんこと、
おちんちん…くつつくんだね〜」

「はふう、んっ…んふっ…んんっ！ はあ、はあ…ふふうっ…あっ！

んんあっ！ はあ、はあ…」

「もう焦らさないでえ♡ 挿れちゃうよお♡」

「んっ…んんんっ、あああああっ！」

「はあ、はあ、はあ、んんっ…ふう、ふう…んんっ…」

「ごめん…もう、挿れただけで気持ちよくてえ…♡ イッちゃったあ…♡」

「はあ、はあ…んっ、ぎゅーってして…♡」

「んちゅっ、ちゅっ、んちゅっ、れるれる…れろちゅう…♡」

「えへへ～…これ、本当にすごいね…」

「体をくっつけるだけで、幸せになって…気持ちよくなってる…」

「チューすると…もっともっと…んんっ、気持ちいい♡」

「幸せ♡」

「ふう、ふう…んちゅっ、れるれる…れろちゅう♡」

「ふう、ふう…それじゃあ、そろそろね…」

「おちんちん、動かさないままだと、あんたも苦しいでしょ…」

「好きなように動かしていいからね…」

「たくさん、私のおまんこで…気持ちよ～く、なって♡」

「んんうっ！ ああっ！ はあっ！ あっ！ んあああっ！

はじめからあ…ああっ！」

「激しっ…んんっ！ はあ、はあ、ふうう！ あっ！ あああっ！

あんっ！ んんっ！」

「ずっと動きたかつ…たんだ、ねえ♡ はあ、はあ、あああっ！

うんっ！ ううっ！」

「生のおちんちん…すごい…よお…じゅるずりゅ、ドチュドチュってえ…

私の中…あうっ…動き回ってえ…」

「はあ、はあ…んんっ…ふうう、ふうう…これまた、すぐ…

イツちゃうううっ…んんっ！」

「あああ、イク、イクイクイク…イックうううっ…！」

「んあ、あああああっ！」

「はあ、はあ、あうう…んんっ、動くの、やめないでえ♡」

「今、おま…んこ、きっとブルブルってしてるからあ…一番気持ち…んんう！

はず、だからあ♡」

「ああっ…あっ！ あっ！ あああっ！ んんっ！」

「ふう、ふう…おくう…響いてるう…おま…んこ、喜んじやって…るうっ…

んんっ！ はあ、はあ…来てえるう…」

「あああっ！ あんっ！ ふうっ！ んんっ！ ああ、あっ！ あっ！

あっ！ んんっ！」

「ねえ、またぎゅーって、ぎゅーってしてえ♡」

「あんたの…体温、感じさせてえ…♡」

「んんっ！ ふううっ！ はあ、はあ…好き、好き…ぎゅうするのお…好き♡」

「はあ、好き♡…♡ 好き♡…♡ 好き♡」

「ふうう…んんっ！ はあ、はあ…あああっ！ あふっ！ あっ、あっ！

あっ！」

「また、イキそ…んんんっ！ ふう、ああっ、はあ、はあ…イクツ…！」

「んんっ！ ちゅう！ ちゅぶっ、れるれる…んっ、んっ！

んりゅっ…んんううううっ！」

「ふうう…んっ！ んっ！ んちゅう、れるれる…れろお…んあつ…んちゅう
…れるれる…」

「ふう、んんっ、ああ、ふう…もう…今日は声でちゃっても…大丈夫なのにい♡」

「あうっ、あつ、あふっ、ふううっ…あんたの顔が近くにあると…」

「ふう、んっ！ キス、したくなっちゃう♡」

「はあ、はあ、んちゅっ、ちゅっ、ちゅうっ…♡」

「ふふっ、おちんちんっ…んんっ、ビクビクってしてきた？」

「体も熱いしい♡ そろそろ、限界なんですよ～…ふう、んっ！

あうっ…んっ！」

「じゃあさ、じゃあさ…んんっ…次は一緒に…イコ？」

「私の中に…全部、全部出して？」

「ううんっ…外に出すなんてやだよ？ せっかく初めての、生なのにい…

中に出さないなんて…絶対やっ…」

「んんっ…あんたの精液、全部、全部出してほしいのお…」

「おまんこの中に…たくさん溜め込んだせーえき、出して？」

「ふう、ふう、ふう…」

「んふっ…ちゅっ♡」

「んあっ…！ ああっ！ はあ！ はあ！ んっ！ はあ！ 激しい…♡」

「えへ、えへへ…出して、出してくれるんだね…んっ、ああっ、あっあっ！

嬉しい♡」

「んんっ！ ふう、じゃあ、んんっ！ イコ…一緒に…一緒にイコっ…！」

「おまんこにっ…初めての生中出し…しちゃう♡」

「びゅくびゅくってえ…全部…出して、出して、出して出して出して…」

「ああ、頭、バチバチってしてえ…ふうう…すごい、来るう…♡」

「ああ、もう、駄目…イク…イクイクイク…んんっ！」

「イックうううっ！」

「はっ…んんんんんっ！ ああああああっ！」

「熱いのお…んんっ！ たくさん、奥に…ビチャビチャって…出てりゅう…

んんっ♡」

「ふっ、ふう…奥、届いて…んんっ…！　これが、あんたの…精液、
んんんっ♡」

「ふう、ふう…んっ…ちゅうう…♡　はあ、はあ…はふう♡　えへへ～」

「体…汗でびしょびしょだあ～はあ、はあ…幸せ…かもお…♡」

「でも、すごく、気持ちいいね…んふう」

「あんただから…たぶん、こうなったんだと思う…」

「んっ…ま、好きな相手…だしね～」

「なーんて…とは言わないよ？」

「んっ…」

「ごめん、我ながら恥ずかしいっていうか…流石に今はあんたの顔、見れない…」

「だから、ん～…しばらく、こうしてぎゅーっとさせて…」

「ふう…んっ…ありがと♡」